



七月

パストラル尼崎

文月

No.122.2022(R4)年6月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel.06-6493-0521

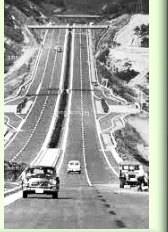
Fax.06-6493-0301

発行責任者：峰田 康弘

◆7月の歳時記◆

7月1日は「名神高速開通記念日」

高槻市丘陵地帯



昭和40年7月1日は、愛知県小牧市から兵庫県西宮市までの190キロメートルの名神高速道路が全線開通した日です。

この頃の日本の道路といえば、国道舗装率は、わずか20%ほど、地方にいたっては6%という狭くて凹凸だらけの劣悪な状態でした。そこに出現した日本初の高速道路の開通は、当時の人々にとつて、ちょっとしたお祭り気分だったようで、路肩に弁当を広げ見物する人、道路の真ん中で記念写真を撮る人、サーカスのように並走して物の受け渡しをする人などが出沒。しかしそんなほのぼのとしたエピソードの影で、全線開通に至るまでの関係者たちの苦労は、涙無しには語れないような壮絶なものだったようです。

昭和32年、名神高速道路の施行命令を受けた公団は、まず用地買収に取り組みます。しかし路線発表を行った頃から地元民からの猛反発が待ち受けていました。湯のみが飛び、座布団が飛びは当たり前。「弾丸道路絶対反対!」と書いたムシ口旗を掲げ、公団や県庁、市役所に押しかける。測量用具を焼き払う。杭を抜かれる。

「高速道路は俺たちの部落をただ通るだけで、何の利益にもならねえ。」と、測量班の係員が村に入るや、半鐘を打ち鳴らし、村人総出で係員を追い出す。汗などその交渉は過酷を極めました。

名神高速を京都に向かって走行すると突然、関西大学の真下にあるトンネルを通過しますが、当時の道路公団と関大が工法とルートを巡って激しく対立したとか、京都インターチェンジ付近では、二人の土地ブローカーによって買収が進まず週刊誌沙汰になったという記録も残っています。

しかし昭和39年9月の愛知県一宮市での妥結を最後に、およそ8年かかって用地取得は完了します。総延長約190キロメートル、用地面積約1200万平方メートル、金額にして約146億円の用地取得でした。まるでドキュメンタリー番組にでも出来そうですが、中には利害が絡むドロドロした話もあったはずで、日陰のドラマも存在したでしょう。

貧しかった日本、世界銀行からの借金や、外国からの技術指導を受け開通に至った経緯など、様々な文献で辿ってみると、今や日本の大動脈のひとつ、名神高速道路建設の壮大なストーリーをもっと知りたくありません。

有名なカプセルタワービル、実は...

この写真にあるサイコロが積み上げられたような奇抜な建物、「中銀（なかぎん）カプセルタワービル」をご存知でしょうか？ 東京・銀座にあるこの建物は、建築家の黒川紀章が設計。（ちなみに女優、若尾文子さんの夫）140のカプセル型の住戸が取り付けられた集合住宅です。その斬新さから度々、メディアにも登場しています。しかし今年の春、この建物の解体が始まりました。ネット上には解体を惜しむ声や、カプセルタワーがいかに素晴らしかったかと熱弁する元住民の声で溢れています。カプセルは、たったの10㎡（約6畳）主にセカンドハウスや仕事場に利用されていましたが、収納やお風呂もあり円形の窓が近未来的でした。黒川氏の構想は、カプセルを交換しつつ老朽化を防ぎ、ビルを200年間維持させるというものでした。彼が提唱していた「時代や必要性によって建物は変化すべき」という考えの象徴的な建物だったようです。しかし、1つだけの取り換えは難しく、ほかに一斉に交換する案や、海外の業者が買い取って再生する案なども浮上するも、残念ながら実現には至りませんでした。建物の存続は叶いませんでしたが、元住人たちがカプセル20数個を残して修復する計画があったり、国内や海外の美術館や博物館から200件もの引き合いがあったりと、半世紀経った今も、ビルは色あせていないようです。（注：中銀とは、パストラル尼崎の管理運営をしている“中銀”の事です）



「白良浜」の砂は、外国産!?

和歌山県 白浜の『白良浜』は有名ですよ。関東地方に多い黒砂と違って、美しい白砂のビーチは自慢!と聞きや、実は現在の「白良浜」の砂は外国産なんだとか...汗 「白良浜」の砂は、ガラスの原材料にも使われる珪砂砂岩で、雪のように白く明るい色をしています。白良浜に限らず、砂浜では、砂が波でさらわれて徐々に減っていきませんが、河川から砂が再び供給される事で砂浜は適正量を保つ事ができます。しかし、白良浜周辺では、観光や宅地開発が進んだ事から砂の供給が減り、昭和の終わり頃から砂浜が痩せてきました。そこで和歌山県では平成元年より、砂浜に砂を足していく「養浜」（ようひん）事業を行う事になります。まずは国内各地から砂を取り寄せるも、白良浜ほど白い砂は見つからず、海外の砂に調査対象を拡げたところ、オーストラリアのパースの砂が相性ぴったりだと判明。その後、継続的に何万トンもの砂を輸入し継ぎ足しているそうです。でも昔はもっと白く鳴き砂だったそうですよ〜。

